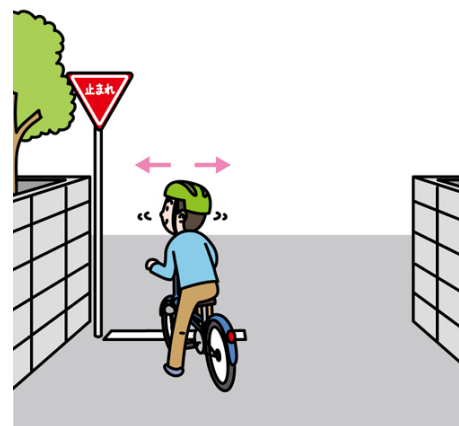


○ 登下校中の自転車の乗り方について

登下校中の自転車の乗り方については、これまでも「学校だより」を通じて各ご家庭での指導をお願いしたり、各学級や全校集会などで再三注意・指導したりしてきましたが、なかなか改善が見られないのが現状です。

具体的には、1学期の冒頭から地域の方々に自転車の乗り方についての様々なお叱りを受け続けています。また先月より、自動車との接触事故、歩行中の小学生との接触、はたまた生徒同士や高校生との接触もあり、ケガをさせてしまったり、ケガをしたりした生徒が絶えません。学校といたしましては、このような事態を何とか改善するための方策をいろいろと検討しているところです。



そこで、昨日、中間テスト後の全校集会において、四日市北警察署大矢知交番の矢田所長

から交通安全等について講話をしていただきました。講話では、自転車の安全で正しい乗り方についてお話いただいたほか、自転車事故における罰則が強化された改正道路交通法（6月1日施行）についてもご説明いただきました。

どうか、各ご家庭におかれましても、今一度、自転車の乗り方などについて話をする機会を持っていただき、子どもたちの交通安全に対する意識を高めるご指導をよろしくお願いいたします。

○ 修学旅行を終えて

先月の5月20日（水）から22日（金）にかけて、3年生は修学旅行に行ってきました。旅行中は天候にも恵まれ、大きな事故もなく全員無事に帰ってくることができ、安堵しているところです。保護者の皆様には、いろいろとご協力をいただき、ありがとうございました。

さて、旅行中には、様々な生徒の姿や言動が見られましたが、私が印象に残っているものの一部を綴ってみたいと思います。



まずは、東京に着いたとき、「ビルが高いなあ」「テレビで見たことがあるものがいっぱいなあ」「ここが国会議事堂かあ」などという生徒のつぶやきです。その生徒を見ていると、ものを見る目が興味関心でひたすら輝いているように感じました。青少年時代に感じた印象、感動、驚き、憧れ（あこがれ）は、今後の人生に影響してくることも少なくありませんし、東京で過ごした三日間、今後の学び、将来の目標に関わってくるかもしれません。そのような可能性があるからこそ、修学旅行は大切な教育活動の一つと言えます。



また、帰途においてバスに乗って四日市東インターに近づいた時、「やっぱり四日市はええなあ」という生徒のつぶやきも、ほのぼのとしたものを感じました。旅の疲れがそう言わせたのかもしれませんが、ただ私は、家族の思いがこみ上げてきたように感じました。また、故郷のよさを改めて感じてのつぶやきのようにも思いました。

最後に、学校では見られない仲間の姿に出会ったエピソードをひとつ紹介します。最終日の昼食

は、クラス単位で取りましたが、私が同行したクラスは「もんじゃ焼き」を自分たちで調理して食べるというものでした。その時、調理のことに詳しく、自分の班の調理を仕切る生徒がいました。そしてその生徒は、隣の班にも積極的に調理のアドバイスをし、「おまえ、よう知っとるな。すごいな」と声をかけられていました。この光景を見て私は、きっと普段とは違う仲間の様子を感じて発せられた言葉のように感じました。このような仲



間との関わりも、家庭を離れ寝食を共にする修学旅行のもつ意義であると思います。

このようなことは、旅行中のほんの一コマに過ぎません。すべての生徒がそれぞれに貴重な体験をたくさんしてきたことでしょう。その体験が、生徒の心をより豊かにたくましく導いてくれるものと願ってやみません。



※「和学鍛」はホームページにも掲載いたします。